

アナログプレイヤーの比較試聴(6)

—モーツアルトを聴く(6)—

1. 始めに

前報(5)に引き続き、アナログプレイヤー3機種の比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も弦楽四重奏です。

DENON OX-7039-ND

モーツアルト 弦楽四重奏曲第 19 番ハ長調「不協和音」

弦楽四重奏曲第 18 番イ長調

スメタナ弦楽四重奏団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

1975年チェコのルチャニーの聖母マリア教会でのPCM録音で、ZANDEN Model120経由のLINN LP-12とGrrad401では、Columbia、逆相、第4時定数Highで聴いていきます。

ThorenTD124の再生では、太目で穏やかな音ですが、ディテールの再現には難があります。

LINN LP-12の再生では、比較的初期のPCM録音ですが、教会録音とあって、PCM録音の音の固さが幾分かはほぐれており、これまでの印象よりはアナログらしさが向上しています。

Grrad401の再生では、LINN LP-12に似た再生パフォーマンスですが、すこし肌理の粗さが目立ちます。

4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、これまでよりアナログらしい再生音になっています。